

豊明市行政評価制度 「事務事業」評価票

一般事務事業 経常事務事業 建設事務事業

第5次行政改革大綱第1次アクションプランとの関連
 有 緑化啓発資材無料配布の見直し
 無

1 事務事業の概要

1-1 事務事業の名称	緑化木の配布事業(主要事業)							
1-2 担当	部	経済建設部	課 又は施設	都市計画課	係	公園緑地係	評価票作成者	公園緑地担当係長 朝岡正志
1-3 総合計画における施策の体系	節	生活環境 「安全・安心で、うるおいのあるまちづくり」			基本施策	緑化	コード	1 2 3
	項	水と緑の環境づくり			単位施策(中)	緑化推進及び緑地保全	コード	1 2 3 1
					単位施策(小)	種子・苗木の配布	コード	1 2 3 1 2
1-4 事務事業の目的の精査	対象と対象の数	市民		意図(対象を事務事業によってどのような状態にするのか)	自らが自宅に樹木や花を植え育てていただくことで、緑化に対する意識や樹木・花に対する管理能力の向上を図る。			
1-5 事務事業の内容	秋に開催される「豊明まつり」の一事業として、緑化木等を配布する。							

2 事務事業実施の状況

2-1 事務事業の実施における基本認識	事務事業実施にあたって心がけた改善の取組み		社会状況等の事務事業がおかれる環境把握		市民ニーズの認識	
	平成18年度	「豊明まつり」の一事業として行われるので、多くの人に興味や関心を持ち会場まで足を運んでくれるような樹木を毎年選定している。	緑化の推進は、都市の温暖化を防ぐ重要な役割を担っており、今後もその重要度は増すことが予想される。		生活の中における緑がやすらぎやうるおいを与えてくれるだけでなく、都市の温暖化を防ぐ有効な手段として考えられている点でも市民ニーズは非常に高いと思われる。	
	平成19年度	市民が関心を持つような季節感のある樹木を選定した。	一般家庭の植栽スペースが減少する中で、1本の苗木、プランター等での栽培が可能な花苗に人気が集まっている。		"	
	平成20年度					
	平成21年度					
	平成22年度					
	平成23年度					
	平成24年度					
	平成25年度					
	平成26年度					
平成27年度						

2-2 総合計画における単位施策成果指標	事務事業成果指標名		前期目標値(単位)	後期目標値(単位)	指標の説明
	苗木、花苗の配布数(本/年間)		3,500(本/年間)	4,000(本/年間)	家庭での緑化木による緑化推進の向上により、街並み飾りができる。

2-3 成果指標に係る活動実績とコストの推移(アウトプット分析)		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
	活動実績 a (本/年間)	5,450	2,900								
	直接事業費 b (千円)	655	385								
	人件費 c (千円)	804	801								
	合計コスト d (b+c) (千円)	1,459	1,186								
単位コスト d/a (千円)	1本当たり0.27	1本当たり0.41	当たり	当たり	当たり	当たり	当たり	当たり	当たり	当たり	

アウトプット実績(活動数値)の補足説明 → 直接事業費は、苗木を購入する経費等。人件費は係総事業費(3人分)の4割の内10%

		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
2-4 成果指標に対応する実績と達成度の推移	指標対応実績(単位)	5,450(本)	2,900(本)								
	後期目標値に対する達成度(%)	136.3(%)	72.5(%)								

3 事務事業の自己評価結果

3-1 評価結果(アウトカム自己分析)		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
単年度担当課評価		A	A								

4段階評価結果 A : 上位目的である施策に貢献しているので継続する
 B : 事務事業の実施手法や環境(予算的・人的)に改善が必要
 C : 縮小等、事務事業としての見直しが必要
 D : 事務事業の廃止が相当

判断の基準 必要性(必要な事務事業であるか)
 公共性(公が実施する意味があるか)
 妥当性(ニーズに対して投入が適正か)
 効率性(結果に至る活動に無駄はないか)
 有効性(活動の結果が上位の目的に貢献しているか)
 市民満足度(事務事業が対象にしている市民を満足させているか)

3-2 評価の内容	今後の環境変化を踏まえた課題認識		次年度に向けて改善する取組み	事務事業の担当課としての単年度の取り組みの自己評価
	平成18年度	緑化の推進は都市の温暖化を防ぐためにも非常に重要であり、単発ではなく継続した事業の実施が必要であると認識している。		行革の一つとして事業規模が縮小されてしまうが、今後も多くの人の興味をひき、緑化への関心を高めていけるよう努めていく。
平成19年度	"		行革の一つとして事業規模が縮小され苗木の配布事業が削減される予定である。	毎年かなりの行列ができるほど大盛況であり、緑化推進に対してはある程度市民に浸透したように感じる。
平成20年度				
平成21年度				
平成22年度				
平成23年度				
平成24年度				
平成25年度				
平成26年度				
平成27年度				

4 事務事業の総合評価結果

4-1 総合評価の結果		結果	審査会による改善方向の指示
平成18年度	A	継続して事業を進めること。	
平成19年度	D	緑化推進のための事業として、一定の役割を果たしたので廃止する。	
平成20年度			
平成21年度			
平成22年度			
平成23年度			
平成24年度			
平成25年度			
平成26年度			
平成27年度			